



TOYAMA
Prefectural
University

富山県立大学ニュース

平成24年5月発行
富山県立大学学生委員会

NO.95

平成24年度入学式



CONTENTS

- 退職にあたり
- News Digest
- 新任教員紹介
- INFORMATION など



退職にあたり 迷々と未だ道半ばです

短期大学部

講師 林 節男

本年3月、短大部の閉学と共に退職しました。これまで、学内外の多くの方々からのご支援に感謝する次第です。学生の時、指導教授の名前が八木(ヤギ⇒山羊)で、研究室の同門会を、迷々(メーメー)会と呼んでいました。電気工学科でしたが、これからは医学との連携が大事になると、与えられた卒論のテーマは、神経細胞間の信号伝達の様子を電子回路で模擬する事でした。当然、力不足で中途半端でした。就職は電気部品会社に内定していましたが、このまま卒業するには不安で、物足りなく感じていました。

ある時、幼児教育のバイブル“エミール”の図書を紹介され、繰り返し読みました。内容的には“上から目線で教えるのではなく、子供が本来持つ感性や自主性を大切に伸ばすように”が大意であったと思います。この大意に共感し、教職に就けないか迷々と思索し、就職を辞退し、研究生を経て大学院に進みました。

農業の機械化には、これからは電気工学も大切になると、1973年に本学の前身、技術短期大学の農業機械科に、地元の利で就職することが出来ました。授業では、農業機械の実験や食品工学、生物環境工学などを担当でき、「農業教育では、何よりも現場を見る・体験することが大切」と近隣の果樹園や川や海に学生を連れ出しました。そこで多くの農家、漁師、JAの方、“柿・リンゴ・ナシ・スイカ”、“鮭”や“白鳥”にもお世話になりました。

研究面でも国内外の多くの果樹園農家・研究者、球根農家と本学の関係者、京都大学の先生方等にお世話になりました。中には、70~80代で現役の方もいて、頭が下がります。今も声援を頂き、少しでも恩返しが出来ればと思っています。迷々とした授業内容でしたが、学生達は根気よく参加し発表してくれました。4月末に、花嫁になる卒業生へ贈る祝辞で、迷々としています。4月から非常勤講師として、工学部の物理実験、測量実習、環境論(イタイタイ病)を継続します。今後も、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。



JAXAと共同で観測ロケットを打上げ



情報システム工学科石坂准教授は、電離圏における電波の伝わり方を調査・解析するため、2基の観測ロケットを昨年12月から1月にかけてJAXA(宇宙航空研究開発機構)などと共同で打ち上げました。

昨年12月19日には、ラジオ放送などで使用されている中波帯電波の異常を引き起こす現象のメカニズムの解明のため、1月12日には、明け方の電離圏の構造を調査するための観測ロケットが打ち上げられました。

いずれのロケットにも本学が開発したアンテナや受信機が搭載され、貴重な観測データを収集することができました。

今回の観測結果は、電離圏の性質の解明やラジオ放送の電波障害防止、新しい衛星など新しい通信手段の活用に向けた研究の進展が期待されます。(写真提供: JAXA)



学内合同企業説明会

2月16日(木)・17日(金)の2日間にわたり、本学大谷講堂で、学内合同企業説明会が開催されました。この企業説明会は、平成25年3月卒業・修了予定者の学生が企業の業種・職種等についての研究をしたり、企業の採用状況・求人日程などについて直接企業の人事担当者から直接情報収集を行うもので、2日間で延べ252名の学生が参加しました。

94社が参加しました。

参加企業は1日目が県内企業を中心に52社、2日目が県外企業を中心に42社、計

スーツに身を包んだ学生達は、熱心に各企業のブースを回り、人事担当者のメッセージに耳を傾けていました。

ERATO浅野酵素活性分子プロジェクト本格始動

昨年10月に発足したERATO浅野酵素活性分子プロジェクト(研究総括:工学部生物工学科 浅野泰久教授)が半年の準備期間を経て、4月から本格始動しました。十数名の研究員や技術員等が着任し、研究活動が本格的に開始されました。また、事務的な面からプロジェクトを支援するプロジェクトヘッドクォーターも組織され、円滑なプロジェクト運営が行われています。

本プロジェクトは平成28年度までの5年間の研究期間で、酵素を用いた医薬中間体などの有用物質の合成や健康診断法などの開発を目指しています。



平成23年度学位記授与式

3月23日(金)、アイザック小杉文化ホール・ラポールにおいて、平成23年度富山県立大学学位記授与式が行われました。式では、前澤邦彦学長が「皆さんの前途には沢山の意義深い仕事が待っており、将来は希望に満ちています。アップルのSteve Jobsの“You've got to find what you love.”(自分の大好きなことを見つけよ)“Stay Hungry. Stay Foolish.”(食欲であれ、愚直であれ)の言葉とともに、Challenge(挑戦)、Curiosity(好奇心)、Career(経験)の3つの言葉を贈ります」と、式辞を述べました。また、石井隆一富山県知事が「夢を実現する気概と、地域や社会の発展に貢献する高い志をもって、新しい国づくりのために活躍してください」と、告辞を述べました。式に併せ、各学科において成績優秀と認められた学生1名に、学長からベストスチューデント賞が贈られました。受賞された方々は、次のとおりです。



工学部機械システム工学科	近藤大二
工学部知能デザイン工学科	関正侑
工学部情報システム工学科	吉竹一智
工学部生物工学科	岩崎典子



「科学とふれあう親子バスツアー」開催

小惑星探査機「はやぶさ」の偉業を描いた、映画「おかえり、はやぶさ」の公開に合わせ、小学校高学年の子どもたちに科学の面白さを体験してもらうイベント「科学とふれあう親子バスツアー」(北日本新聞社主催)が3月25日(日)に開催され、親子約120人が参加しました。本学では「はやぶさ」に関する講演会、科学工作教室を行いました。

当日は、前澤学長の歓迎挨拶の後、情報システム工学科石坂准教授が「はやぶさ」の仕組みや、研究テーマである電波観測について実演を交えた講演を行い、子どもたちは興味深く聞き入っていました。

その後、「はやぶさ」のペーパークラフト(機械システム工学科 坂村教授)、太陽電池を動力源にした太陽系の惑星が回転する組立キット(石坂准教授)、プラネタリウムのペーパークラフト(知能デザイン工学科 松本講師)の3つの科学工作教室があり、参加者は親子一緒に楽しみながら模型の製作に取り組んでいました。

平成24年度入学式

4月5日(木)、アイザック小杉文化ホール・ラポールにおいて、平成24年度富山県立大学工学部と大学院工学研究科の入学式が行われ、322名の新しい学生を迎えました。前澤邦彦学長が、「大学では、すべてを自分の責任において、自主的に判断し、決定し、実行していかなければなりません。初めからすべて一人で判断することは難しいので、同じ目標を持つ多くの学友や教職員とともに悩み、乗り越えてください。今日の初心を忘れず、将来、高度専門技術者として、社会をリードし、社会に貢献できるよう、一步一步前進してください」と式辞を述べました。

また、植出耕一富山県副知事が「旺盛な好奇心をもって新たな課題にチャレンジし、学生生活を実り多いものとして下さい。日々、努力を重ねられ、大きく飛躍されますことを心から期待しております」と知事の告辞を代読しました。工学部の柳原卓也さん、大学院の吉竹一智さんが新入生を代表して「高度な専門知識や技術を身につけ、大いなる夢と希望をもって、目標に果敢に挑戦することを誓います」と大学生活に対する決意を述べました。



教員の受賞について



生物工学科 鎌倉 昌樹 講師

日本遺伝学会Best Papers賞 H24.2.9 受賞

受賞論文「ミツバチの女王蜂分化誘導因子ロイヤラクチンの発見」

<研究の概要等>

ミツバチは女王蜂と働き蜂からなる階級社会(カースト)を形成しており、幼虫の間に働き蜂が分泌するローヤルゼリー(RJ)を摂取した個体のみが女王蜂へと分化している。これまでにこの女王蜂への分化のしくみについてはまったく明らかになっていなかった。そこで、ミツバチの女王蜂分化誘導機構を解析した結果、RJ中に含まれる成分「ロイヤラクチン」が女王蜂の分化を誘導する因子であることを明らかにした。さらに、驚くべきことにロイヤラクチンをショウジョウバエに投与或いは過剰発現させた場合にも、女王蜂と同じような体サイズ、産卵数、寿命の増加が見られた。ショウジョウバエ及びミツバチを用いた詳細な解析から、ロイヤラクチンは上皮増殖因子受容体(EGFR)シグナルを活性化し、女王蜂分化を誘導していることが明らかとなった。

学生の受賞について

本学学生が次のとおり各学会賞等を受賞しました。(学年は受賞時)

受賞者	学科等	学会賞名
上野 啓夢	機械システム工学科 4年	日本設計工学会 武藤栄次賞「優秀学生賞」
般若 秀明	機械システム工学科 4年	日本機械学会「畠山賞」
関 正侑	知能デザイン工学科 4年	日本機械学会「畠山賞」
大西 悠介	知能デザイン工学科 4年	電気学会北陸支部「優秀学生賞」
河合 修平	知能デザイン工学科 4年	ライフサポート学会「奨励賞」
錦古里勇翔	情報システム工学科 4年	電子情報通信学会北陸支部「優秀論文発表賞」
木村 幸輔	情報システム工学科 4年	映像情報メディア学会北陸支部「優秀学生賞」
山下 和也	情報システム工学科 4年	情報処理学会北陸支部「優秀学生賞」
若松 剛	博士前期課程機械システム工学専攻 1年	富山県機電工業会「ものづくりinとやま」論文「優秀賞」
川野 優希	博士前期課程機械システム工学専攻 2年	日本設計工学会 武藤栄次賞「優秀学生賞」
中野 雄太	博士前期課程機械システム工学専攻 2年	日本機械学会「三浦賞」
住田 知規	博士前期課程知能デザイン工学専攻 1年	電子情報通信学会北陸支部「優秀論文発表賞」
大藪 勇希	博士前期課程知能デザイン工学専攻 1年	電子情報通信学会北陸支部「優秀論文発表賞」
森 慧	博士前期課程知能デザイン工学専攻 1年	電気学会北陸支部「優秀論文発表賞」
浅野 誠之	博士前期課程知能デザイン工学専攻 2年	計測自動制御学会北陸支部「優秀論文発表賞」
浅野 誠之	博士前期課程知能デザイン工学専攻 2年	電子情報通信学会北陸支部「優秀学生賞」
豊田 勇氣	博士前期課程知能デザイン工学専攻 2年	日本音響学会北陸支部「優秀学生賞」
佐藤 尚弘	博士前期課程知能デザイン工学専攻 2年	日本機械学会「三浦賞」
宮前 潤一	博士前期課程情報システム工学専攻 1年	情報処理学会北陸支部「優秀論文発表賞」
花井 大輝	博士前期課程情報システム工学専攻 1年	電子情報通信学会北陸支部「優秀論文発表賞」
竹村 真琴	博士前期課程情報システム工学専攻 2年	電子情報通信学会北陸支部「優秀論文発表賞」

●新任教員紹介●



教養教育 准教授 川上 陽介

このたび、教養教育の准教授に着任いたしました。京都大学で学位（文学）を取得し、京都大学、京都府立大学、同志社女子大学、花園大学において、日本近世文学、和漢比較文学、日本語教育、中国語教育などの教育・研究に従事してまいりました。学生の皆さんとは、1年次必修科目「日本語表現法」や「教養ゼミ」、または「国語・国文学」「トピックゼミ」などの授業でお会いすることになると思います。アカデミックな環境にふさわしい日本語表現力を身につけ、グローバルな国際社会で活躍できる、教養ある人材を育成するため、微力ながら、全力を尽くしたいと考えております。



環境工学科 講師 立花 潤三

この4月から環境工学科・資源循環工学・環境政策学講座の講師として着任いたしました。3月までは鳥取県産業技術センター及び東京大学生産技術研究所で、地方都市における低炭素社会の方策やエネルギー削減技術・方策に関する研究を行ってまいりました。4月からは、これまでの研究内容を基に、エネルギー政策、環境政策の視点を加え、小水力発電やバイオマス利活用技術などの開発研究を行うとともに、富山県が目指すべき具体的な低炭素社会の形とそこへの道筋を検討する実証的な研究に取り組んでいきたいと考えております。どうぞよろしくお願いたします。



環境工学科 講師 古谷 元

この4月より環境デザイン工学講座の講師として着任しました。京都大学大学院理学研究科で学位取得後、同防災研究所、新潟大学災害・復興科学研究所で地すべり・斜面崩壊の発生機構や移動機構の解明に関する研究を展開してきました。また民間の総合コンサルタント会社で防災分野の調査業務も行ってまいりました。今後は、持続可能な社会を形成する上で自然環境や人間の生活環境を考慮した防災・減災手法に資する研究を進めたいと考えています。ご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

OB・OG 紹介

「プラントエンジニア」という選択

日産化学工業株式会社 富山工場 工務部計電課 主査 今堀 徹
(平成6年3月 富山県立大学 工学部 電子情報工学科 卒業)

私はこの春、「日産化学工業」に入社して19年目に突入した。その間、人間的にも技術的にも成長できる環境で、本当に充実した日々を過ごしている。

「化学(Chemical)」と聞いて、県立大の学生の皆さんは“ピン”と来ないかもしれないが、機械・知能・情報を専攻する皆さんが最先端で活躍できる場所がこの会社(業界を含む)にはあることを知ってもらいたいと思い、この原稿を書いている。ここで3名の県立大OBを紹介したい。

○青井 俊朗：2000年3月、工学部 機械システム工学科 卒業

新旧プラントが共存する富山工場の中で、最新鋭である電子材料プラントを担当。現在、韓国の関連会社で設備増強計画が進行中であり、その建設プロジェクトの中心メンバーとして選任され、多忙な日々を送っている。

○藤木 武志：2002年3月、工学研究科 機械システム工学専攻 修了

富山工場のメイン設備である「アンモニアプラント」を担当。40余年の間、年中たゆまず稼働し続ける設備を維持管理するため、日々の保全業務や機器の更新計画を遂行。現在、プラントの将来像を追求しながら、コストダウン計画を手掛ける。

○向 和宏：2007年3月、工学研究科 機械システム工学専攻 修了

富山工場の中で最も厳しい環境とされている硝酸系・塩素系製品の製造プラントを担当。入社以来一貫してこれらの設備と向かい合い、個々の設備における保全方針※を確立。この春より先輩：青井の下で電子材料プラント担当者として新しい一歩を踏み出す。(※保全方針…例えば、整備周期や内容など、担当者自らが技術的な根拠をもって明言すること。)

一方、電気系技術者としての位置づけにある私は、これまでに富山工場内の様々なプラントにおける保全・改善業務、海外での建設業務などを経験し、3年前に管理職へ昇格した。現在、工場全体の設備費を統括管理する業務をこなしながら、所属する課のグループ責任者として部下育成と技術力の維持拡大を図っている。

一般に化学プラントを担う「プラントエンジニア」は、化学工学・機械工学・電気工学(電子や制御を含む)という3分野の技術者の連携が不可欠であり、日常的にこれらの担当者間で綿密に調整・確認を取りながら業務が進められる。「設備(モノ)」と向き合うために必要な技術力を身につけることはもちろんであるが、人との関わり合いの中でしっかりとコミュニケーションを取ることができることも非常に大切な要素である。

また当社におけるプラントエンジニアは「少数精鋭」であり、ひとりひとりの成長をとめて大切にしている。また同僚に限らず会社幹部とも分け隔てなく「談論風発」できる雰囲気があることも是非アピールしておきたい。



左から藤木さん、青井さん、向さん、今堀さん

「行政職員としての立場」—震災の復興支援活動に参加して—

富山市農林水産部 農政企画課 技師 宮内 俊貴
(平成15年3月 富山県立大学短期大学部 農業技術学科 生物生産専攻 卒業)

私は富山県立大に短期大学部生として平成13年に入学し、農業技術学科生物生産専攻生として、農学について学びました。その後、岐阜大学農学部へ三年次編入し、修士課程まで4年間在学。現在、富山市役所農林水産部で富山市の農政について仕事をしています。

私は富山市の園芸振興や特産物・地産地消の担当として、主に朝市・直売施設の支援活動などを行っています。その関係もあり、よく富山市内の朝市にもお邪魔することがあるのですが、そこで大学時代にお世話になった先生にお会いすることがあります。卒業してからも時々、大学の方へ顔を出すことがありますが、自分の担当する仕事の場であつての恩師と接する機会があるのは大変嬉しいことです。

一昨年からは富山市職員労働組合の執行委員も務めております。富山市職労からの派遣職員第1号として、昨年3月11日に発生した東日本大震災の復興支援活動として、宮城県気仙沼市へ行ってきました。主に全国各地から届く支援物資の仕分け作業を行っていましたが、想像以上の荷物が毎日届き、段ボールにして何千、何万個という想像を遥かに凌ぐ量を目の当たりにしました。もちろん、他の自治体の職員も派遣されてきましたし、地元の職員の方も活動をしていました。それでも全く作業に区切りがつかず様子もなく、全く先が見えません。特に地元職員の方々は、自分たちの家族や友人、同僚も被害に遭っているにも関わらず、休む暇もなく仕分け作業の他にも通常業務を行わなければなりません。気丈に振る舞っている彼らの姿を見て、私は「もし自分がこのような立場になったときにまともな精神でいつもと同じように仕事ができるのか」と、深く考えさせられたと同時に、公務員が執る行政サービスの重要性について改めて感じさせられました。わずか一週間程度の派遣でしたが、得られた経験は非常に大きなものだったと思っています。

話は戻りますが、短期大学部は今となっては廃止となり、お世話になった先生方もほとんどが退職されていると聞いております。大変寂しいことではありますが、これも時代の流れというものなのでしょう。県立大にはわずか2年間の在学でしたが、6年間の大学生活の中でもかなり強く印象に残っています。

最後になりますが、在校生の皆様方、そして卒業生の皆様方のますますのご活躍をお祈りいたしまして、私の近況報告といたします。農業に興味のある方は是非ご連絡下さい。明日の富山市農業について語りましょう。



宮城県気仙沼市にて(平成23年4月)

博士の学位授与報告

3月23日(金)の学位記授与式において、博士(工学)の学位を授与された方の氏名と論文題目は次のとおりです。

【課程博士】

(機械システム工学専攻)

福江 高志 電子機器熱設計のための小型軸流冷却ファン性能モデルに関する研究

(生物工学専攻)

上田 聡 半合成抗真菌薬ミカファンギンの中間体製造に関する研究

【論文博士】

(機械システム工学専攻)

中山 勝之 不連続面を伴う圧縮性流れに対する解適合格子法の精度向上と効率化に関する研究

市町村連携公開講座

本学では、地域に密着した大学としてその教育研究の成果を広く社会に開放し、地域社会の向上に資するとともに生涯教育の一助となることを目的として、県内市町村と連携した「市町村連携公開講座」を毎年開催しております。

今年度の「市町村連携公開講座」は下記のとおり開催いたします。

- テーマ 子どもと教育
- 受講対象 高校生以上の方
- 受講料 無料
- 申込方法 氏名、性別、年齢、電話番号を記入のうえ、はがき・FAXでお申し込みいただくか、受講申込書を朝日町教育委員会事務局へ持参下さい。
- 開催日・会場

開催日	会場	時間	定員	講義題目	講師等
6/2 (土)	さみさと小学校 第1音楽室	14:30~15:50	100名	子どもの教育と社会及び 家庭環境の変化	富山県立大学 教授 奥田 実
6/6 (水)	あさひ野小学校 ミーティングルーム	19:30~20:30	50名	子どもの生活習慣と健康	富山県立大学 准教授 岡本 啓

●申し込み・お問合せ先

朝日町教育委員会事務局 〒939-0793 下新川郡朝日町道下1133
TEL : 0765-83-1100 FAX : 0765-83-1109

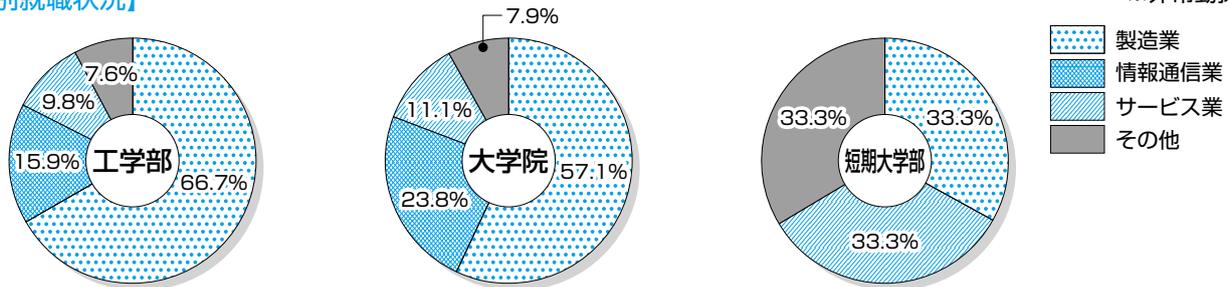
富山県立大学地域連携センター 〒939-0398 射水市黒河5180
TEL : 0766-56-7500(内線234) FAX : 0766-56-6182
URL : <http://www.pu-toyama.ac.jp>
E-mail : shogaigakushu@pu-toyama.ac.jp

平成23年度卒業・修了生進路状況

	卒業・修了者数	就職者数	うち県内就職	進学者数	うち本学大学院又は専攻科
工 学 部	203 (35)	132 (25)	55 (13)	70 (10)	67 (8)
機械システム工学科	53 (4)	37 (3)	13 (1)	16 (1)	16 (1)
知能デザイン工学科	52 (4)	33 (2)	17 (1)	18 (2)	18 (2)
情報システム工学科	45 (3)	27 (3)	9 (1)	18 (0)	17 (0)
生物工学科	47 (24)	※30 (17)	15 (10)	17 (7)	15 (5)
機械システム工学科(旧)	3 (0)	3 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)
電子情報工学科	3 (0)	2 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)
短期大学部	18 (7)	15 (6)	13 (4)	2 (0)	0 (0)
専攻科 環境システム工学専攻	18 (7)	15 (6)	13 (4)	2 (0)	0 (0)
大学院・博士前期課程	65 (10)	63 (10)	22 (4)	2 (0)	1 (0)
機械システム工学専攻	19 (0)	18 (0)	6 (0)	1 (0)	1 (0)
知能デザイン工学専攻	14 (1)	13 (1)	4 (0)	1 (0)	0 (0)
情報システム工学専攻	19 (2)	19 (2)	9 (2)	0 (0)	0 (0)
生物工学専攻	13 (7)	13 (7)	3 (2)	0 (0)	0 (0)

() は女子内数
※非常勤採用含む

【業種別就職状況】



人事消息

異動区分	職	氏 名	異動区分	職	氏 名
就 任 (24.4.1)	入試・学生募集部長 附属図書館長 キャリアセンター所長 計算機センター所長 生物工学研究センター所長	森 孝 男 楠 井 隆 史 奥 田 実 松 田 敏 弘 伊 藤 伸 哉	退 職 (24.3.31)	工学部准教授 短期大学部講師	鈴木 敏 彦 鈴 林 節 男
新規採用 (24.4.1)	工学部准教授 工学部講師 工学部講師	川 上 陽 介 立 花 潤 三 古 谷 元	転 出 (24.3.31)	総務課主幹 総務課課長補佐 総務課副主幹 教務課主幹 教務課主任 教務課主任 教務課主事 教務課主事	境 博 紀 山 田 伸 徹 高 木 淳 一 高 畑 洋 一 元 平 幸 垣 内 弥 村 上 橋 聖 中 橋 理 聖
昇 任 (24.4.1)	工学部教授 工学部准教授 工学部准教授 工学部准教授 工学部准教授 工学部講師 事務局次長・総務課長 総務課副主幹	福 原 忠 行 宮 本 泰 美 鈴 木 真 由 三 宅 壮 聡 石 坂 圭 吾 濱 田 昌 弘 吉 田 秀 之 宮 本 賢 司	転 入 (24.4.1)	総務課主幹 総務課主幹 総務課課長補佐 総務課副主幹 教務課主幹 教務課主任 教務課主任 教務課主事 教務課主事	白 田 知 己 岩 田 武 北 山 俊 務 沢 井 男 村 山 美 村 山 美 中 村 智 恵 越 田 真 子 松 原 梨 恵 広 瀬 彩 乃

SCHEDULE 平成24年度

		大 学 院	工 学 部
1(金) 開学記念日 1(金) ひまわりプロジェクト (1年次生全員による種まき) 2(土)、6(水) 市町村連携公開講座 23(土)～24(日) サークルリーダー研修会	6月	14(木)進路ガイダンス	16(土)オープンキャンパス
		19(火)、20(水)特別授業(補講)	25(月)編入学試験
4(土) ダ・ヴィンチ祭	7月	2(月)工学研究科入学者選抜	11(水)、12(木)、24(火)、25(水)特別授業(補講)
			21(土)エコツアー I
	8月	2(木)～10(金)授業又は前期試験	4(土)オープンキャンパス
		10(金)前期授業終了	21(火)、22(水)工学研究科入学者選抜
	9月		27(月)～9/14(金)集中講義

CAMPUS NOTE

バレーボール部



バレーボールサークルは約20人で活動しています。男女、初心者、経験者みんな和気藹々と週に2回活動しています。多くの人はサークル後ご飯を食べに行ったり、忙しい人は早く帰ったり、やりたい放題です。バレーはもちろんやりますが、楽しく、グダグダやっています。しかし、このチームにも大会に出る権利があり、毎年2回ほど北陸三県の大会に参加させてもらっています。これは、他大学との交流を目的として参加しているので、私たちのチームは楽しく試合をしています。また、北信越大会という少し大きな大会もあり、それは気分が向いたときに旅行気分に参加しています。本当に自由気ままにやっています。“あ一体動かしてえ”とか“暇”とか“やべえ、デブってきた”って思ったら是非、体育館まで足を運んでください。なにか人生に変化が起きるかも。お待ちしております。

バレー部大石 tpu_volley@yahoo.co.jp

編集後記

なぜ、今殆どの大学でキャリア教育がおこなわれているのか？

もともと大学では、幅広い一般教養と専門教育を通して、自立、社会性の獲得、職業人としての準備等を目指し、幅広い人間形成を図る事を目的としている。そして、目標の喪失や生活の乱れ、メンタル面での不調により留年、休学に至る学生が多くなっている事、持続力や社会性、コミュニケーション力の不足が目立つ、といった近年の大学生の状況。更に、最近の調査によれば、ある年の卒業者のうち、卒業後に無職・アルバイトをしている人、卒業予定者で中退した人、早期離職(就職から3年以内に退職)を考慮すると、無職が安定した職についていないとみられる人が約5割にもなるといった現状があるためである。

本学では、22年度から文部科学省「大学生の就業力育成支援事業」として選定された「企業社会で活躍できる骨太人材育成プラン」を進めてきた。

このプログラムは、①学生の自己開発力を強化するキャリアドックの開発・実施、②学生の社会性・実践力を涵養するキャリア教育の展開、③学生の就業力・生きる力を増進する支援ネットワーク体制の構築の3つの柱で構成されている。①においては、社会人に必要な能力の傾向を知る事が出来る「社会人基礎力テスト」、性格特徴や行動傾向、精神的健康度を知る事が出来る「自己分析テスト」、食事・睡眠、学業等の実態等を知る事が出来る「生活実態、適応度テスト」、職業適性や職場での適応能力を知る事が出来る「職業適性テスト」など、現在の学生生活を見つめ直し、自己を知り、自己の成長を助けるツールとなる自己診断テストを検討している。なお、学生が希望すれば、テスト結果をもとに悩み相談や心身の健康を維持するための支援を受ける事が可能である。②においては、グループでのフィールド体験学習を通してチャレンジ精神や自信をつけられるものとして「プロジェクトアドベンチャー」が検討されている。③においては、学生に対する進路指導や生活指導の力量を向上させるために、教職員を対象とした研修会を実施している。また、就職活動で困難を抱えている学生や精神面で不調をきたしている学生に対して早期に的確に対応するために外部の専門機関と連携した支援体制を整備している。

このプログラムの一部はすでに「キャリア形成論」の授業の中に取り込まれ、今後も、キャリア形成に関する教育・支援をより一層強化していく予定である。

(松本 三千人)



この用紙は資源保護のため、インキは植物油インキを使用しています。

再生紙を使用しています。